
貴方に捧ぐバレンタイン

蒼月緋焰

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

貴方に捧ぐバレンタイン

【Nコード】

N8961S

【作者名】

蒼月緋焰

【あらすじ】

内容はザックラでシリアスになります。ある意味死ネタでもありますが、今回はシリアスのくくりにしました^^;バレンタインの日にザックスの墓参りをするクラウドの話です…!!

（前書き）

B L内容を含みますので苦手な方はご注意ください

この小説は、C C発売前に書いておりますのでクラウドとザックスのやりとりが異なっております。あらかじめご了承ください。

「また来たよ…」

小高い丘の上。かつて、人々の生活を支えていたミッドガル。今では朽ち果て、人の住める場所ではなくなったそこが一望できる場所…

「ザックス…」

どこか寂しさを漂わせる小高い荒野…。

「変わってないな…あの頃と…」

辺りを見渡せば蘇ってくる、俺とここに眠る奴にとっては忌まわしき記憶…

それはとても曖昧で、

でも、決して忘れられない…

あまりにも残酷で、

もっとも悲しい…

そんな“キオク”が繋ぎ止められている過去の“バシヨ”…。

地面に深々と突き立てられた巨大な剣。今となってはそれだけが、

ザックスという男が確かにこの星に存在していたのだと…その事を証明させる唯一のもの。

「なあ、ザックス…今日が何の日かわかる…？」

俺は、その剣…彼の愛刀だったバスターソードに話し掛ける。返事なんて返ってくるはずなのに。そっとそれに触れてみると、ひんやりとした感触…。それはまるで、あの日に降っていた雨のような…そんな感じ。

「って、いつつもこの時期になるとアンタはしつこい位に俺に聞いて来たよな…」

それは、遠い日の思い出…

『なあ、クラウドオ…今日は何の日だよ…!!俺達にとって大事な日だろ?』

『だから知らないって…しつこいぞ!!』

『ホントかあ?ま、いいや…俺はいつでも受け取ってやるからな』

『ばっ…誰がザックスなんかバレンタインチョコなんか…!!』

『んんっ?俺はバレンタインチョコなんて一言も言っていないぜ?』

『~~~~~!!…!!』

「本当は…」

何の日か知っていた。忘れるはずもない、大切な日…。

それは、女が愛する男にチョコレートを渡す日。

俺達は男同士だったけど…けど、それ以外は何等違う恋人同士。

俺も…きちんと渡したかった。当日に、手渡しで。

でも、どうしても素直になれず、折角チョコレートを準備していたのに…何も知らない振りをしていた。そして2月14日が終わってから、まるでバレンタインのチョコではありませんよ、と言わんばかりに至って普通にザックスにチョコレートを渡していた。なのにザックスは…

『遅すぎだつて！！バレンタインは一週間前に終わってたぜ？でも…サンキューな…』

そう言つて、俺の渡したチョコレートを嬉しそうに受け取ってくれた。

「馬鹿だよな…なんで…」

どうして素直になれなかった？

どうしてその日に渡してあげられなかった？

俺はそうやって、後になって後悔してばかり。

素直になって渡したいはずなのに、

きちんと想いを伝えたいはずなのに。

どうしても恥ずかしくて、素直になることが出来なかった。

だから今度こそは、きちんと渡そうと…自分の気持ちを伝えようとして…そう思っていた。

そしたら…

そしたらさ…

雨…

なり止まない銃声…

俺の名を呼ぶ声…

赤い液体…

止むことのない雨…

そして…

『クラ……すき……だ……』

それがアイツの最期の言葉…

俺は混濁する意識の中ではっきりとその声を聞いた。

『ザックス……』

雨の中で、赤に染まって横たわっているお前…

『アンタ…ソルジャーなんだろ…クラス1stなんだろっ…!!』

それは俺にとって、非現実的な光景で…

『なあっ!!起きろよ!!ザックスッ!!』

でも、逃れようのない現実で…

『いやだ…いやっ………うあああッ

!!…!!』

そして俺は、壊れていった。

もう、後悔はしたくない。

だから…

今日、俺はここに来た。

「ハッピー・バレンタイン…」

今日は、2月14日…バレンタインデー。

今更だけど、どうしても当日に渡したくて…

どうしても、この想いを伝えたくて。

お前が好きだった、ほんのりビターなチョコレートを届けるために…ここに来たんだ…。

「珍しいだろ？当日に渡すなんて…」

ポツリ…ポツリ…

それはまるで、あの日を思い出させるかのように、大地を濡らし始める。

「ザックス…ッ…!!」

好きだった…

「俺はっ…俺はッ…!!」

いや…そうじゃない。

今でも、アンタの事が…

「好きだ…好きなんだ…」

どうしても、忘れられないんだ。

土砂降りの雨の中、俺はお前の形見を抱き寄せていた。

雨が容赦なく俺を襲う。

『強がるなって…泣きたいときは、泣いてもいいんだぜ？』

そんな言葉が聞こえたような気がした。

「泣くかよ…馬鹿…」

雨の中…

「いつまでもガキ扱いするな…」

まるで子供みたいに…

雨と共に、無数の「雫」が流れ落ちていった…

「ごめん…」

何に対する謝罪？

「ごめん…な…」

いろいろ…ホントに…

『ばーかー！何、マジになって謝ってんだよ！お前は悪くないって…な…？クラウド…』

小さな箱に、すべての思いを詰め込んで、これを貴方に捧げます…。

大好きな、貴方へ…

【END】

(後書き)

2006年のバレンタイン企画で配信した小説なんですけど、実はこれ…会社で昼休み時間に思いついて、すごい勢いで携帯に打ち込んだんですよ(笑)今でも鮮明に覚えています(笑)私自身この小説は結構気に入っていたりします(笑)まあ、駄文であることに変わりはありませんけどね(笑)

最後までお付き合い頂き、有難うございました

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8961s/>

貴方に捧ぐバレンタイン

2011年10月9日00時06分発行